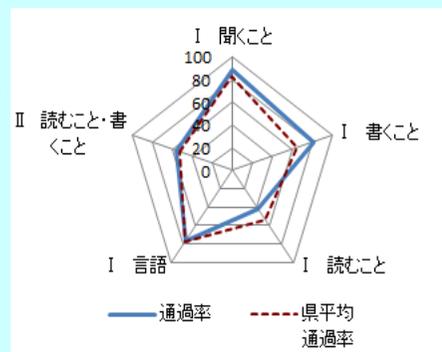
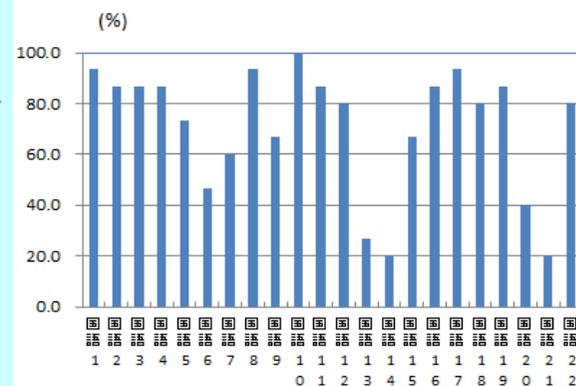


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.9%, 県 68.0%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向について
  - タイプⅠは、74.1%、タイプⅡは、56.7%の通過率である。
  - ・学習指導要領の領域「読むこと」に関する問題の正答率が低い。(42.2%)
  - ・タイプⅡの問題の正答率が低い。
  - ・問題の形式としては、「記述式」の問題の通過率が低い。
- 昨年度の課題への取組の成果(あるいは課題)
  - 昨年度、「書くこと読むこと」の領域「情報を取り出し、情報を関係付けて記述する」問題と「情報を取り出し、理由や事例を挙げて記述する」問題で通過率が低く、新聞記事・意見文などを読ませ、要点をまとめる活動を通して、大切な部分を読み取る力、資料から分かることを選ぶ力を身につけさせたかったが、課題が残った。

### 重点課題

- 【課題1】  
「読むこと」の領域で、「叙述を基にした想像(自分の考えの記述)」が20.0%と低い。
- 【課題2】  
「書くこと読むこと」の領域で、「複数の資料から必要な情報を取り出し、それらと関係付けて記述する」問題で通過率が20.0%と低い。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

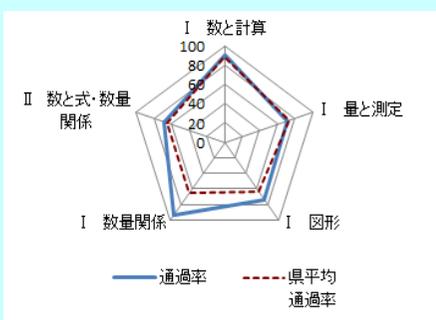
- 【課題1】
  - ・複数の資料を関連づけて考えるような課題を授業で設定する。
  - ・児童の興味・関心のある文章や平易な文章からスタートし、初見の文章・新聞記事・意見文などを読ませ、要点をまとめる活動を通して、大切な部分を読み取る力、資料から分かることを選ぶ力を身につけさせることに、繰り返し取り組み、定着させる。
- 【課題2】
  - ・書く必然性のある言語活動を設定する。書いた文章を見直し、何がどうおかしいのか、どのように改善すればいいのかを考えさせ、話し合わせたりする学習を仕組んでいく。
  - 例・書き出しを書いておき、続きを書かせる。・放送など生活場面で正しい表現が使えるよう指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	全学年 単元末テスト	全学年 単元末テスト	全学年 読解問題テスト	4年生 H27「基礎基本」	全学生 標準学力テスト	4年生 H28「基礎基本」	全学年 学年末テスト
目標値	85%	85%	85%	80%	基準値を超える児童80%	80%	85%
実施後数値							

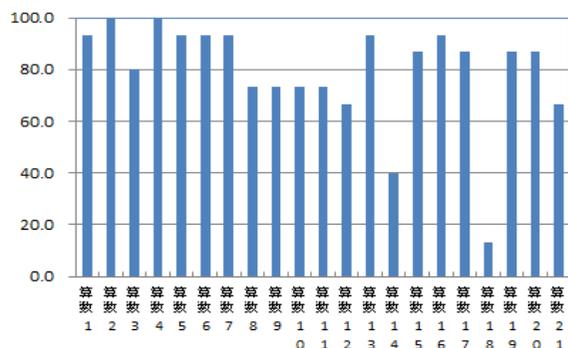
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	全学年 単元末テスト	全学年 単元末テスト	全学年 書くことのテスト	4年生 H27「基礎基本」	全学生 標準学力テスト	4年生 H28「基礎基本」	全学年 書くことのテスト
目標値	85%	85%	85%	80%	基準値を超える児童80%	80%	85%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 79.4%, 県 77.1%)

領域別平均通過率



数と式・数量関係の平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向について  
タイプⅠは、82.2%、タイプⅡは、68.0%の通過率である。
- 昨年度の課題への取組の成果(あるいは課題)
  - ・「図形」領域に関する問題の正答率が低く、作図に用いられている図形の約束や性質を理解していなかった。そこで、条件付きの問題から作図する活動を仕組んだり、身の回りの図形に目を向けさせ、図形についての感覚を豊かにさせたりするなど指導方法の工夫改善を行い、今年度は73.3%の通過率で成果が出た。

### 重点課題

#### 【課題1】

「数と計算・数量関係」のタイプⅡの問題で、「2つの折れ線グラフの関連付け」において、正答率が13.4%と低い。グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて説明することに課題がある。

#### 【課題2】

「数と計算・数量関係」のタイプⅡの問題「事象の解釈と根拠の説明」において、正答率が26.7%であった。数量の関係を表した式に基づく判断を理解し、その理由を式と言葉を用いて記述することに課題がある。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

- ・グラフや表などの資料から分かることを明確にさせ、「まず」、「次に」、「だから」などの接続詞を用い、ある事象や結果の理由を説明させる。
- ・自分の考えを、グラフを指し示しながら、具体的な数値を根拠に、説明し対話する活動を取り入れる。

#### 【課題2】

- ・自分の考えを図や式、言葉を用いて書き、説明する活動を取り入れる。
  - ・問題場面を式に表したり、式から場面や一般的な関係を読み取り説明し対話したりするなどの活動を取り入れることで、式で表すことのよさや便利さを児童に実感できるようにする。
- ◎振り返りの改善を図る。(1時間で何が分かり、何ができるようになったのかを授業の前後で比べる。)

【課題1】	9月 全学年 単元末テスト	10月 全学年 単元末テスト	11月 全学年 単元末テスト	12月 4年生 H27「基礎基本」	1月 全学生 標準学力テスト	2月 4年生 H28「基礎基本」	3月 全学年 学年末テスト
学年・方法							
目標値	85%	85%	85%	80%	基準値を超える児童80%	80%	85%
実施後数値							

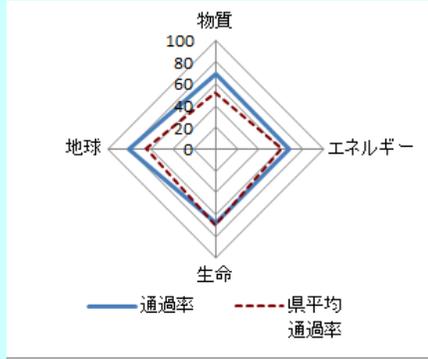
【課題2】	9月 全学年 単元末テスト	10月 全学年 単元末テスト	11月 全学年 単元末テスト	12月 4年生 H27「基礎基本」	1月 全学生 標準学力テスト	2月 4年生 H28「基礎基本」	3月 全学年 学年末テスト
学年・方法							
目標値	85%	85%	85%	80%	基準値を超える児童80%	80%	85%
実施後数値							

# 指導方法等の改善計画について〔理科〕

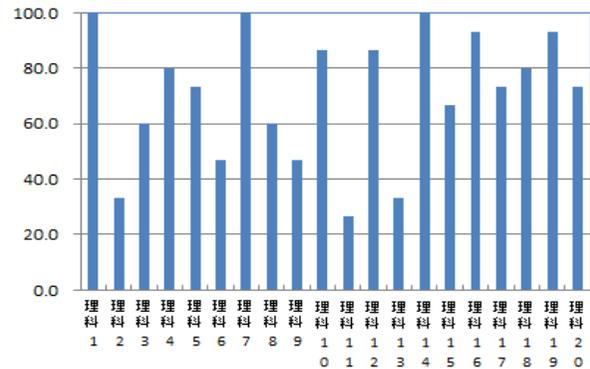
安芸太田町立加計小学校

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.7%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



教科別の平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向について  
タイプⅠは、72.7%、タイプⅡは、68.1%の通過率である。
- ・領域「生命」の「虫眼鏡の使い方」(26.7%)、「生物のすみか」(33.3%)が低い。
- ・領域「物質」の「適切な検証方法の選択」(33.3%)が低い。
- ・タイプⅠは+0.3%、タイプⅡは+17.1%と県平均を上回っている。
- 昨年度の課題への取組の成果(あるいは課題)
- ・昨年度は、科学的な思考・表現における、根拠を明確にし、科学的に説明することが課題であった。実験、観察後に記述させたいキーワードや内容を明確にし、まとめの文章を書かせる指導を行い、「自学ノート」を活用して、既習事項をまとめることによって、より深い根拠のある知識・理解内容の定着を図っていった。

## 重点課題

- 【課題1】  
「生命」の領域の観察道具や器具の使い方の定着に課題があり、特に虫眼鏡の使い方などを、実際の観察などで使いこなす必要がある。
- 【課題2】  
「物質」の領域の「適切な検証方法の選択」の通過率が低いことは、図や言葉だけの理解に終わっており、実際の実験を通しての体験が不足しているところに課題がある。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

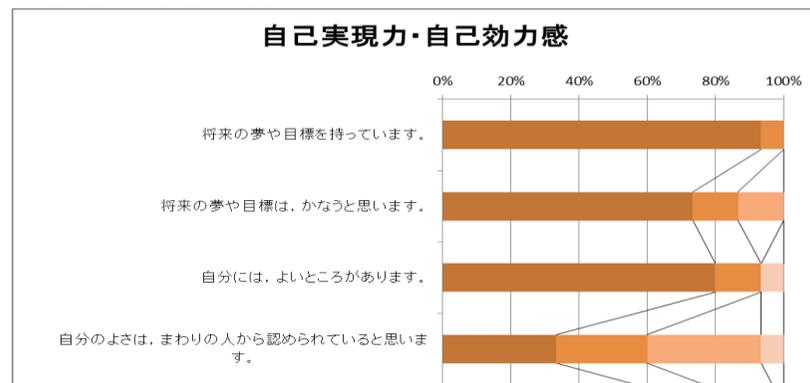
- 【課題1】  
・実験、観察を多く取り入れ、実験の課題から仮説を立てながら実験を行い、そのことを通して検証することの定着を図っていく。また、考察やまとめの記述をする時に、理科用語のキーワードを明確にし、根拠を明確にして記述し、そのことを、科学的に説明し対話する場面を意図的・計画的に行う。
- 【課題2】  
・実験の方法を、教師側がいつも提示するのではなく、児童に考えさせ、準備し、行うことも取り入れる。課題を明確にし、見通しをもった主体的な検証実験を意識させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	全学年 単元末テスト	全学年 単元末テスト	全学年 単元末テスト	4年生 H27「基礎基本」	全学生 標準学力テスト	4年生 H28「基礎基本」	全学年 学年末テスト
目標値	85%	85%	85%	80%	基準値を超える児童80%	80%	85%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	全学年 単元末テスト	全学年 単元末テスト	全学年 単元末テスト	4年生 H27「基礎基本」	全学生 標準学力テスト	4年生 H28「基礎基本」	全学年 学年末テスト
目標値	85%	85%	85%	80%	基準値を超える児童80%	80%	85%
実施後数値							

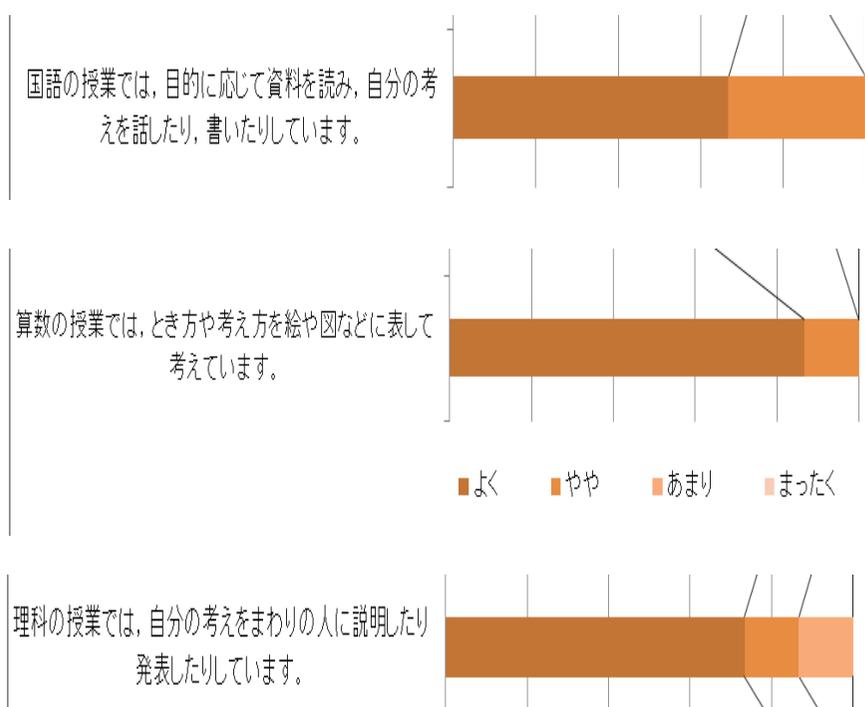
## 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

### （１）生活・学習



児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己実現力・自己効力感において、「自分にはよいところがあります」の項目において、否定的な回答をしている児童がいる。（肯定的な回答 93.4%）</li> <li>「自分のよさは周りの人から認められていると思います」の項目において、否定的な回答をしている児童がいる。（肯定的な回答 60.0%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会で、友達によさやがんばりを伝え合う活動を取り入れる。</li> <li>全校で「いいねの木」の取組を進め、他学年のよいところを紹介し合う。</li> <li>特別活動や行事においては、目標を立てさせ、事後の振り返りで自分の成長やがんばりに気付かせる。</li> </ul>	3年生以上	80%以上	児童アンケート調査による	2月		

### （２）教科



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」について、「やや」と答えている児童がいる。（肯定的な回答 100%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に生きて働く課題を設定、解決、活用させることができるような単元を構成し、そこに必要となる基礎的・基本的な資料の読み方、自分の考えの表現の仕方を習得・活用させる指導を行う。</li> </ul>	3年生以上	80%以上	児童アンケート調査による	2月		
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>「解き方や考え方を絵や図などに表して考えている」について、「やや」と答えている児童がいる。（肯定的な回答 100%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しを持たせたり、絵や図の描き方を指導したりする。</li> <li>一つの考え方だけでなく、多様な考え方を見つけるようにする。</li> </ul>	3年生以上	80%以上	児童アンケート調査による	2月		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」について、否定的な回答をしている児童がいる。（肯定的な回答 86.7%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説を設定する際には根拠を述べさせたり、実験方法を考える際にはなぜその方法がよいのか理由を説明し対話する場面を仕組んだりする。</li> </ul>	3年生以上	80%以上	児童アンケート調査による	2月		

